

Road to the Paralympic

2019 WORLD PARA SERIES IN GLASGOW 報告(職能開発科・岸本)

- 1 日 程 平成 31 年 4 月 23 日(火)～4 月 30 日(火)
- 2 目 的 1. 世界選手権に向けて海外遠征を通じた強化を行う
2. 国際クラス分け受検をする。
3. 各国チームおよび世界トップ選手たちの状況を確認する。
- 3 主 催 一般社団法人 日本身体障がい者水泳連盟
- 4 対 象 2019世界選手権日本代表選手/役員
- 5 大会会場 Tollcross International Swimming Centre
367 Wellshot Rd, Glasgow G32 7QP Tel:0141 276 0801
- 6 宿泊先 Jurys Inn Hotel Glasgow 80 Jamaica St, Glasgow G1 4QG
- 7 報 告



今大会は、同時期に行われる Para Swimming World Series の1つで、33か国から340人が参加しました。特にヨーロッパ圏の選手が多く、開催国であるイギリスは国の代表選手選考会も兼ねていることから世界トップ選手の泳ぎを間近に見ることができました。パラ水泳では障害区分がたくさんあり、今大会では順位を平等に評価するため、各障害区分の世界記録からのタイム差によるポイント制が採用されました。

【遠征中の様子】

○大会会場

ホテルからバスで20分程度のところに会場があります。2015年には世界選手権も開催され、私はそのとき以来2回目グラスゴー遠征でした。



☞現地の街並み。イギリスの食事は種類が豊富とはいえないので、毎日同じような朝食・昼食・夕食でした。食後は、コーヒーよりも紅茶がおすすめです。

○役割

全盲選手の全てのレースでタッピングを行いました。ターン側のタッピングを担当し、ウォーミングアップでタッピングのタイミングや壁までの距離を確認してレースに挑みました。また、それ以外の場合は、選手のレース映像を撮影して選手にフィードバックしたり、助言をしたりしました。タッピングスティックは教材として学校に持参しているので、今年も授業で使います。



○レース&ウォーミングアップ

競技は、午前中に予選、午後に決勝が行われ、選手各自がレースの時間に合わせてウォーミングアップや陸上トレーニング、ケアをはじめます。レース撮影エリアには数か国が集まり、レース分析などを行っていました。日本は、鈴木孝幸選手が1つの世界新記録と5つのメダル(金3、銀2)を獲得しました。

